

実施方針

1. 設計の理念と考え

「様々な現象に開かれた場」をみんなで創り続ける

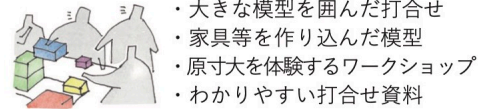
本施設の基本理念である「人・文化・まちを育む創造の広場～文化芸術と災害文化が繋ぐ 人と人、過去と未来、仙台と世界～」を踏まえ、私たちが提案するのは誰もが主役となり参加できる「様々な現象に開かれた場」をみんなで創り続けるというシンプルな設計理念です。

「一緒に考え、一緒につくる」を基本姿勢とした「綿密な対話」を重視する設計プロセス

私たちはすべての関係者と綿密な対話を重ね、一緒に考え、一緒につくることを基本姿勢として業務に取り組めます。打合せやワークショップ毎に意見・要望を取り入れて柔軟に対応し、提案を発展させていきます。「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本計画」を最大限に活かし、文化芸術と災害文化を掛け合わせた施設を具現化します。

①大きな模型を用いた体感できる打合せ / みんなでイメージを共有する

設計のすべての段階で大きな模型やCGやVR、原寸大を体験する等、イメージを共有しながら打合せを行います。明快な打合せ資料作成や、専門的な言葉遣いを避け、わかりやすい説明を心掛けます。



- ・大きな模型を囲んだ打合せ
- ・家具等を作り込んだ模型
- ・原寸大を体験するワークショップ
- ・わかりやすい打合せ資料

②比較検討を重視した客観的な設計プロセス

各段階において比較検討による客観的評価を行います。毎回テーマを明確にし着実に業務を進めます。

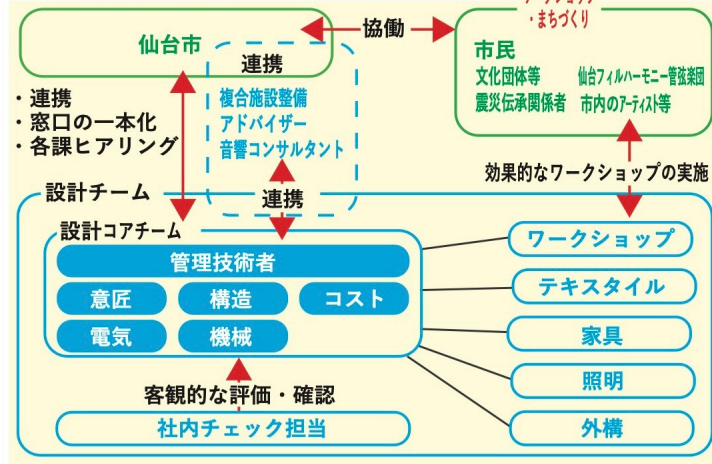
| | A案 | B案 | C案 |
|-----|--------|--------|--------|
| 概要 | | | |
| 工事費 | ¥00000 | ¥00000 | ¥00000 |
| 安全性 | △ | ○ | X |

比較検討資料イメージ：
予算、工期、安全性、機能性等、様々な条件を整理してポイントを明確にした協議を行います。

豊富な実績・受賞歴を有する、長年の協同実績を活かした設計チーム

管理技術者を中心に、業務分野ごとの専門家が連携するコアチームが本計画における最適なデザイン / 環境を導き、施設完成後の運営評価までプロジェクトを深く追求します。豊富な設計実績をもつチームが協働することで、独創性と優れた性能を兼ね備えた建築を生み出し、仙台市に相応しい音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点を生み出します。

●プロジェクトチーム



●担当者の特徴

| | |
|-----------|--|
| 管理 | 多角的な視点でプロジェクトを総合的にマネジメントする。活動、空間の魅力、防災対策、周辺環境との調和や使い易さ、経済性、安全、環境性能などを総合的に評価し最適解を導く。プロジェクト調整力に優れ、関係者との円滑な連携を図る。 |
| 意匠 | 公共建築を中心とした豊富な実績を設計に活かす。 |
| 構造 | 合理的で耐震性に優れた安心・安全な構造設計を行う。経済性と性能の客観的比較検討・評価により適切な構造設計を行う。 |
| 設備 | 経済性に配慮しながら、高効率の設備機器選定、自然エネルギーの積極的導入を行いながら環境共生型施設を実現。 |
| コスト | 整備パターン別概算工事費算出や、各段階において概算工事費を算出し、コスト管理を徹底。 |
| 専門的アドバイザー | 設計コアチームの他、様々な協力事務所、アドバイザーを迎え、多角的・専門的な設計を行う。その他、社内チェック担当（照査）による客観的業務内容確認や、主任技術者以外にも経験豊富なスタッフを配置し確実に業務を行う。 |

2. 設計を進める上で特に留意すること

仙台市の資源「ヒト・モノ・コト」を繋ぐワークショップ（以下WS） - みんなでつくる -

施設は「モノ」だけでは無く「コト」をつくり出すことが大切です。そのためには地域の方々も含め、施設を使う「ヒト」たちが主役になり、使い方を十分に対話する場を設けることで、これまで培われた町の資源「ヒト・モノ・コト」を繋いで活かせる施設を目指します。

施設と地域をつなぐ「活動の種」を育てていくことで、開業後に協働する基盤をつくっていくことが重要です。

段階的・継続的なワークショップの企画

将来積極的に建物活用されるためには、設計段階から使い手と関わりを持つことが重要です。本計画でも、目的を明確にしたワークショップを継続して行い、供用開始後の管理運営面まで見据えて市民との対話を行っていきます。

その他の配慮事項

県産材を用いた木質化

積極的に木仕上げを採用し、木質の温かみある空間をつくり出します。

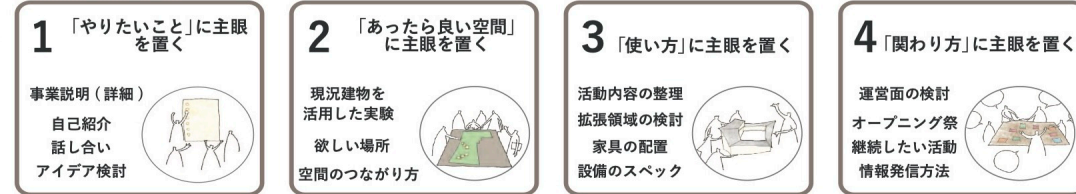
感染症対策の徹底

自然換気のできる環境計画、各所への手洗い設置など、感染症対策を徹底します。

一人ひとりの個性を大切にユニバーサルデザイン

健康・障がい者の多様性を十分理解した本質的なユニバーサルデザインを目指し、成長過程や能力差に応じたインクルーシブな環境を実現します。

●WSフローのイメージ



3. コスト削減に対する提案

品質確保とLCC(ライフサイクルコスト)低減の両立

①総工費低減を徹底した設計段階の工夫

必要諸室の取捨選択、面積の適正化、自然エネルギーを最大化する断面計画、構造躯体の仕上活用、発生土の外構利用など、品質確保と総工費低減の両立を徹底します。

②多角的な視点による環境負荷・維持管理の低減化

イニシャルコスト削減を徹底した上で、意匠・設備・構造・外構計画を網羅した多角的な視点で、空調システム、照明計画、素材選定を検証し、ランニングコストの低減化を徹底します。

●ランニングコスト(運用時コスト)削減例

| | |
|-----------|---|
| メンテナンス | バルコニーによる足場が不要な維持管理 配管シャフトの集約化による容易な設備更新 高耐候・耐久性、ノーメンテナンス素材の選定 |
| 自然エネルギー利用 | 自然採光・通風、日射遮蔽 太陽光発電・蓄電池による創エネ 井水利用による水道代削減 |
| 熱負荷軽減 | 複層ガラスの採用、高断熱・外断熱化 |
| 高効率化 | 照明のLED化、人感センサー、利用制御など 節水型生成器具の採用、空調・換気の全熱交換器採用 |
| ICT活用 | BEMS導入による光熱費の見える化(職員の省エネ意識を高める) |

徹底したコスト管理と事業全体をコントロールするプロジェクトマネジメント

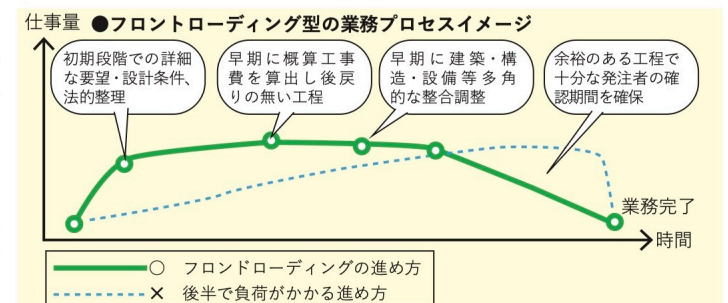
技術面やコスト面の管理を徹底、総合的にプロジェクトを円滑に推進し、必ず工期内に業務を完了します。

①フロントローディングによるスケジュール管理

初期段階に丁寧なヒアリングによる要望の整理、法的条件の整理、複数の整備パターンと比較検討、概算コスト算出を行い、早期に方向性を定めることで、後戻りの無い確実な工程管理を行います。

②ロードマップによる業務の到達点の共有

着手時に各段階における目標・目的明確化したスケジュール(ロードマップ)を作成し、明確な目的をみんなで共有しながら業務を円滑に遂行します。段階毎に要望の実現状況、概算コスト、技術的問題等を管理し、検証・確認を繰り返すことで手戻りのない工程管理を実現します。



●スケジュール案 計画・設計フェーズに沿ったワークショップ開催スケジュールとテーマ設定の例

| | 令和6年度 | | | | | 令和7年度 | | | | | | |
|--------------|----------------------------|-------------|---------------------|------------------|---|------------------|-------------------------------------|----|----|----|-----|---------|
| | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
| フェーズ | 基本設計 | | | | | | | | | | | 実施設計・工事 |
| ロードマップ(決定事項) | 諸条件整理 配置案決定 | ゾーニング 決定 | 平面計画 決定 | 立面断面、 構造、設備決定 | 概算コスト 確認 | 最終確認 期間 | フロントローディングによる余裕のある工程で十分な発注者の確認期間を確保 | | | | | |
| 概算コスト | 概算1 | | | 概算2 | | 概算コストの内容を随時設計に反映 | | | | | | |
| 計画・設計 | 基本計画の諸条件の確認 配置案、ゾーニング検討 | | ゾーニング 平面計画の複数案検討 | | 立面、断面、部分詳細、仕上、構造、設備、外構、木材利用計画等、基本設計完了に向けて検討 | | | | | | | |
| ワークショップ(WS) | 住民ヒアリング まちのことを知り、仲間を増やす | WS1 | WS2 | WS3 | WS4 | WS5 | WSは常に設計に反映できるタイミングでテーマ設定を行う | | | | | |

4. 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

軒の出が深い自然エネルギーを最大化する縁側建築

ポリゴンコラムが建築全体に軒の出が深い縁側や、テラスや屋上緑化された庭を散策する立体的な回遊路を創り出します。日本の気候風土に適したこの断面構成が中間期には建具を全開放し、自然と一体化したような場をつくり出します。

災害に強く合理的で長寿命な施設

地震に強く、復旧や機能保全が行いやすい計画とし、中心部震災メモリアル拠点に相応しい災害に強い施設を設計します。市民や職員が安心して快適に利用し続けることができる長寿命な建築を実現します。

